

防災ニュース No.11

11月29日避難訓練を実施しました

野路自主防災組織事務局
平成22年1月15日
発行責任者 福井太加雄

地震・風水害時等における災害時の異常な心理状態のなかにも素早く安全に避難行動がとれる力を養うとともに、各自が携帯品・服装などの点検をしたり、実際に避難場所まで避難したり一人で避難出来ない人の助けを習う訓練を平成19年から実施しており、平成21年度として11月29日に訓練を行いました。



21年の重点は！

- ① 第一次集合場所での組みについて
- ② 初期消火訓練（天ぷら油火災消火・消火バケツ）訓練の実施
- ③ 避難訓練の実施に伴う、事故防止等について
- ④ 非常食と子どもにはヘリウム風船を参加者に渡した。

「安全・安心のある街づくり」を住民が一体となって推進するため、672名の参加のもとに避難訓練を実施しました。

初期消火訓練「天ぷら油火災消火・消火バケツリレー」や「女性消防隊の消火訓練」「普通救命講習」「訓練の際の事故防止等」を重点として実施し、防災意識の高揚を図りました。



避難に備える

～安全に避難するために～

いざ避難、というときにはあわててパニックに陥らないことが大切です。落ち着いて、速やかに避難するために何をしたらいいのか確認しておきましょう。

こんな時は急いで避難

避難指示が出ていなくても、自分の家や周りで危険を察知したり、災害になる要素があれば、すぐに避難することが肝心です。

- 市区町村や警察署、消防署、自主防災組織から避難の連絡や指示があったとき
- 津波やがけ崩れ、地すべりや土石流など、災害発生のおそれがあるとき
- 家屋や建物などの倒壊の危険があるとき
- 自宅で火災が発生し、火が天井まで燃え移ったとき
- 近隣で火災が発生し、延焼するおそれがあるとき

安全避難 8つのポイント

二次被害や、避難途中の事故を防ぐために、次のポイントをおさえて行動しましょう。

1 避難する前に、忘れずにもう一度火元の確認を

- ガスの元栓、電気のブレーカーなどの火元の確認を忘れずに行う

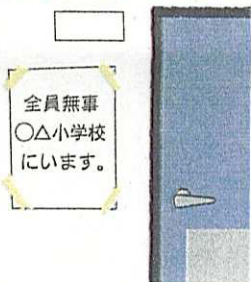


2 安全で、身動きのしやすい服装での避難を心がけて

- 頭をヘルメットや防災ずきんで保護
- 燃えにくい木綿製の、長袖・長ズボンを着用する
- 手には軍手をつけ、底が厚く丈夫な運動靴(ひもでしめられるような靴)を履く
- 荷物は最小限に抑え、身軽に動けるよう心がける



3 安否情報や避難先を書いたメモを家に残す



4 山間部などの一部地域以外、避難は基本的に徒歩で



5 子どもや高齢者とはぐれないよう注意



6 できるだけ近所の人と集団行動を意識して

- 隣近所に声をかけてから集団で避難
- 一人暮らしのお年寄りなど要配慮者の安否の確認を



7 危険が予測される場所は避けて通る

- 川のそば
- ガラスや看板が多い場所
- 塀やがけ
- 狭い道など



8 できるだけ指定された避難場所に避難

